

[潤生園ニュースレター]

vol. 4

2021

うるる

特集
安心の暮らしを
支える力



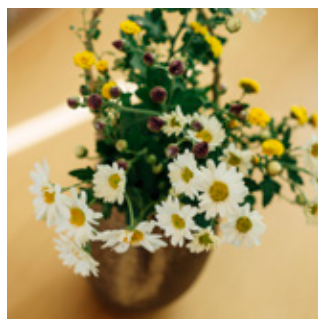
一人ひとり違うご自宅での暮らしを
「通い」「訪問」「宿泊」を通して
支える人たちに会ってきました。

対談

地域で共に生きるための思想 [後編]

草山明久 (報徳二宮神社 宮司) × 時田佳代子 (潤生園理事長)

安心のために、 できること



言葉のやりとりがある。お世話する人、される人、だけじゃない関係になっていける。そんなことから、ここは自分の居場所だ、と安心していられるようになるんじゃないかな。

山崎さんはひとときも止まっていない。窓の外を眺めている女性のところに行ってお茶の残りを確認すると、「トイレ、いきましようか」と車椅子に手を掛ける。そうかと思えば、何やらスタッフと相談している。いつも何かを観察し、判断している、そんなふうに見える。

玄関にお迎えの車が停まり、スタッフに連れ添われたご利用者が車に乗り込んでいく。

「ここは施設に来る時間も帰る時間も、人それぞれなんです。他のご利用者が帰る姿が見えると、「あれ、私は何時に帰るの?」って不安になっちゃうご利用者もいらつしやるんです。それで、リビングから玄関が見えないように廊下の境に扉を増設したんですよ。

小規模多機能では、自宅で暮らしながら「通い」「訪問」「宿泊」という3つのサービスを組み合わせる利用でき、どのサービスも馴染みのスタッフが担当する。ご利用者の多様な暮らしに柔軟に寄り添える画期的なサービスだが、認知症の方にとっては毎日



の生活変化は不安材料にもなる。そこで効果を発揮するのが、この「馴染みのスタッフ」。

でも記憶が長続きしないご利用者には、どうやって「馴染み」だとわかるのだろう。

「記憶はなくても」「このひと知ってる」って、肌でわかるようです。ふだん、ちゃんと目を見て話したり、最後まで話を聞いて否定したりしない、そんなふうにいると、尊重されているっていう感覚が積み重なっていく。それが大事。基本的なことなんですけどね。

お泊まりが朝から不安で仕方がないご利用者に、スタッフが声を掛ける。あらOさんお泊まり? 私、今日、夜までいますよ、泊まってくれてうれいわ。顔見知りのスタッフのなにげない声かけで、ご利用者に安心の笑みが浮かぶ。そんな場面を見るとほっとすると山崎さんは言う。

認知症の方の介護は、施設だけでは成り立っていない。施設も家庭も、できれば地域ぐるみで協力



しあって、高齢者の暮らしを支えることが必要だ。高齢化が進む世の中で、これからはますますそうなっていくだろう。

「私たちのサービス形態って、ご利用者の情報をたくさん持てるんです。昼間だけじゃなく、お泊まりの夜の様子も見られるし、ご自宅にも行かれますから。それを元に家での介護が少しでもしやすくなる方法をお伝えするようにしています。ご家庭の介

護力が上がったほうがご家族もご本人も楽になる、安心できる。困ったことがあれば気軽に相談してもらえる存在でありたいですね。

なかには独居の方もいらつしやる。歩けなくなっても訪問したスタッフと冗談を交わしながら生活ができるタフな方もいらつしやるが、歩いて動けても不安で不安でいられないという方には、どんなに手を尽くしても今のサービスが最善ではないかもしれない。この方には何ができるのか。

山崎さんは手を動かしながらスタッフと共に考える。

「それぞれ違う心の拠り所に寄り添って、お一人おひとりの「その時々」の安心」のために精一杯できることをする、一緒に考え続ける。私たちの仕事はそういう役割なのかも知れません。



山崎信子さん（介護福祉士）

小学校の教諭を経て、2000年に潤生園へ。訪問ヘルパー、デイサービスにて管理者を歴任。潤生園初・地域初のグループホーム「よりあいどころ田島」に続いて、小規模多機能型居宅介護施設「みんなの家たじま」の立ち上げを担った。現在は若い世代の事業部長に管理職を譲り、認知症の高齢者を地域ぐるみで支える安心の拠点を守る、スタッフにとって心の拠り所となる存在。



関わり合いから生まれる潤生園の「安心」

生活に寄り添い、あらゆる声に耳を傾ける

スタッフたちの日誌、のぞかせてください！

2021年 11月1日 - 30日

11月2日【火】

自宅で転倒し、泊りをご利用された独居のI様を2週間ぶりに自宅にお送りした。認知症の進行もあつて最近は何となく発語されなくなっていたが、自宅にお送りし、「Iさん、お家に帰ってきましたね。どうですか？」と声をかけると「うん。いいよ」と満面の笑み。久しぶりに聞いたI様の声に、住み慣れた場所がもつ力の大きさを再認識。「熊谷」

11月4日【木】

9時10分、N様宅を訪問。服薬の確認をする。明日の分の袋が破けていたので、「寒くて朝は手がかじかみますよね」と伝えると、言葉が発しづらい症状のあるN様は一拍おいてから「理解していただいて、ほんとうに、ありがたいです」とはつきりと大きな声で仰り、深々とお辞儀をされた。「建部」

11月8日【月】

A様の爪を看護師が切っていると、「人に爪を切ってもらうのは有難いけど」「こんなこともでなくなったのね」ってガツカリするわ」と口にされた。

今日はご家族の帰りが遅いからとA様はお泊りの日。夕食後、一人用の宿泊室に入られ、21時にはテレビをつけたまま眠っていたので、静かに消灯させていただく。毎日いろいろな不安が頭をよぎるのだろうかと思像するが、ぐっすり眠っておられるA様を見て、私たちへの心からの信頼を感じた。「小塩」

り召し上がり、静かなときが流れた。「玉城」

11月19日【金】

独居のため通いと訪問のサービスをご利用されているY様。配食や傾聴ボランティアさん、民生委員さん、ご近所の方々、地域包括支援センター（包括）の職員さんなど、多くの支援を得ながら暮らしていらっしゃる。Y様は少し前に身に覚えのない請求をされ、その頃よりなんとなく元気がない。本日も訪問中、民生委員さんからの連絡で包括の職員さんがY様の様子を見にこられ、心強く感じる。Y様のような被害に遭わないよう、これを機に消費者センターなどへの相談や、後見人制度の導入も視野に入れている。「工藤」

料理の苦手なスタッフ（私）をいつも助けてくれるH様。ふだんはソファで居眠りしていることが多いH様だが、料理に関しては「なんでも聞いて」とすぐにやってみせてくれる。これではいつまでたっても私の料理の腕は上がりそうにないが、H様の力を感じられる大切な時間を一緒に過ごしている。「西山（剛）」

11月22日【月】

E様を迎えに行ったスタッフより、起床時から背中が痛むと本人より話があったことを聞く。通いにお連れしても症状が変わらないため、かかりつけの病院へ相談。循環

11月23日【火】

緊急事態宣言が解除されたので、ピクニックへ。軽介助を必要とされる方がおられたが、ほかのご利用者様が食事の配膳など進んで手伝って下さった。ふだんお話をされない方同士でも、いつもと違う場に来ると気さくに話すことができる様子。小規模だからこそピクニックレク。コロナ禍で息詰まった鬱囲気をご利用者・スタッフ共に払拭することができた。「水口」

11月9日【火】

「ちょっと電話してくる」と16時を過ぎると必ず十円玉を持って事務所へ向かうK様。理由は都度違うが、ほかのご利用者様が帰宅されることが原因と考えられる。娘様が迎えに来ることを伝えると「じゃあいいね」と席に戻られるが、1分も経たずにまた電話をかけに席を立たれ、またすぐに電話をしたことを忘れてしまう。K様にとつて過ごしやすい環境にするにはどうしたらいいのか…。私たちにできることを常に考える。「小野」

11月11日【木】

「運動会、どんなことをするの？ 種目は？ 私、走れない…」などとご利用者様から声がかかる。質問に答えて、皆さんとフロアに運動会らしい飾りつけ。応援の旗、玉入れ用の玉、それぞれができる範囲で準備に参加して下さる。

午後から1時間半ほど室内で楽しい時間を過ごす。白勝て、赤勝て…声を出して応援

11月15日【月】

S様のお宅を訪問すると、S様は洋服に着替え、バックを持って玄関におられた。「あれ？ 今日は行く日じゃなかったっけ？」と仰る。デイ（通い）はお休みの日であることを伝えると、「なんだー、行く日じゃないのかー」と残念そう。これからもデイが楽しいと思えるような雰囲気づくりをしていきたい。「諸星」

11月25日【木】

お昼を告げるチャイムが聞こえると、ご利用者様がお茶を注ぎ、お箸を並べ始める。温かいかいごはんとお味噌汁。「いただきます」と明るい声がひびく。ここのご利用者様は、ほとんどの方がふだん独居生活をしている。ご利用者様の食事中的笑顔を見て、何を食べるかよりも誰と食べるかが大切ということをあらためて感じる。食事が終わるとR様が「みんなと食べたから、残さず食べちゃった」と嬉しそうに仰った。「中村」

11月26日【金】

公共交通機関も買い物場所も乏しいこのエリア。地域の方向けに「みんなの家たじま」を発着所に毎週水曜日「お買い物バス」を運行している。久しぶりにご利用のご夫婦が車内にいらっしやった。声をかけると「最近、足の調子が悪くて来られなかったのよ」と仰った。同乗されていた仲間からも声を掛けられ嬉しそうな様子。お買い物バスがつなげる近所の方同士の交流を見られてよかった。「西山（豊）」

援する選手の一員として私も参加した。ふだんは見られない皆さんの明るく強い表情を見て、勝負はやはり勝ちたいものだ…とほんわり愉快的気持ちに。「大内」

11月17日【水】

公共交通機関も買い物場所も乏しいこのエリア。地域の方向けに「みんなの家たじま」を発着所に毎週水曜日「お買い物バス」を運行している。久しぶりにご利用のご夫婦が車内にいらっしやった。声をかけると「最近、足の調子が悪くて来られなかったのよ」と仰った。同乗されていた仲間からも声を掛けられ嬉しそうな様子。お買い物バスがつなげる近所の方同士の交流を見られてよかった。「西山（豊）」

11月18日【木】

朝がゆっくりのO様。11時頃、通いサービスのお迎えに伺うと「わたくしはいきません」とたまに入るスイッチが入っている。こうなるとお連れするのが難しい。では、また参りますね、とにこやかに退室し、お昼ご飯を二人分、運搬用にセットしておいて下さいと事務所に連絡。調理担当が見事にアレンジしてくれたバスケットを持って再訪問。「お昼をお持ちしました。一緒によろしいですか？」とお伝えすると、「いいいわ。あらゝなあに？ すこーい！」。一緒に手洗い、消毒、お茶の準備。テーブルに並べ始めると、「うわあ！ きれい！ これ（器）も素敵！」。お食事に集中されたO様はゆっくり

間にホールにあるピアノを弾いている。一音一音ゆっくりだが一定のリズムが心地よい。病気を患う前は保育士さんのお仕事をされていたというM様。ピアノの椅子に腰かけている姿勢が、ふだんよりも伸びていたように感じた。「西山（豊）」

11月30日【火】

日中のみ独居のT様、訪問サービスのご利用日。この日は同居の娘様が20時過ぎになるとのこと、3回目の夕方訪問時に事務所へお連れし、夕食を一緒に食べて娘様のお迎えを待つことに。

事務所でお茶を飲んでいると、お豆腐屋さんのラッパが聞こえたので、道路の向こうまで行ってみますか？ と声をかける。「うん、行くー」とT様。T様は楽しそうにおぼろ豆腐を選ばれた。本日のメニューに一品追加！ 手引き歩行で戻り始めると、お豆腐屋さんが品物を玄関まで持ってきていきましょうか？ と声をかけて下さる。帰路で、犬の散歩途中の男性が通りかかり、T様は犬の頭を撫でて男性と立ち話。お夕食の頃には、そのときの出来事は記憶になかったけれど、お豆腐屋さんの優しさやうれ違った男性の温かい眼差し…

余韻が確かにありましたね、T様。「玉城」



記入者

潤生園みんなの家南足柄

玉城倫子

介護福祉士 介護支援専門員

好きなこと:クラシック音楽鑑賞

諸星真紀子

介護福祉士

好きなもの:ディズニー全て

建部由紀子

介護福祉士

好きなもの:猫のすべて

潤生園みんなの家いいざわ

中村洋子

介護職

好きなこと:レトロな車を集める

潤生園みんなの家ほたるだ

西山剛史

管理者、介護福祉士

趣味:バイク、家族とドライブ

熊谷優歩

介護福祉士

趣味:映画鑑賞、アイドルの追っかけ

潤生園みんなの家はくさん

小塩直美

管理者、介護福祉士

好きな食べ物:たこ焼き

大内利枝子

介護福祉士

好きな食べ物:おはぎ

水口智枝

介護福祉士

好きな生物:猫

工藤ひとみ

介護支援専門員、介護福祉士

好きな食べ物:餡子

小野瑞希

介護職

好きな生物:馬

潤生園みんなの家たじま

西山豊

管理者、介護福祉士

趣味:旅行

地域で共に生きるための思想【後編】

福祉やケアを誰にとつても身近なものにするために、

潤生園理事長の時田佳代子さんが各分野で活躍している方とお話をし、

そのヒントを読者のみなさまと考えていく本コーナー。

前回に引き続き、報徳思想「経済と道徳の一元」から小田原の未来を描き実践する

報徳二宮神社の宮司草山明久さんと共に、地域共生社会のこれからについて考えます。

地域の未来を紡ぐ場づくり

ビス、経済教室などを展開する予定です。

時田 2021年3月に「箱根口ガレージ 報徳広場（以下、箱根口ガレージ）」が南町にオープンしましたね。草山さんが実践してきたことが、境内から街に飛び出してきた感じがして、わくわくしています。どのようなコンセプトで始められたのでしょうか。

時田 夜の取り組み、とても興味があります。具体的にはどのような運営を考えていますか？

草山 昼間はレストランとスイーツのショップ「きんじろうCAFE&GRILL」と「パティスリーHNNA」のほか、フラワーショップ「報徳会館デザインスタジオ FLOWER&GARDENS」とランドリーサービスを営業しています。夜の営業にはいろいろなアイデアがあり、地域食堂や、生活必需品の配送シェアサ-

草山 食堂に関しては、地元の人がキッチンを使って食事を振る舞い、地域の人たちが集まる場所にしたいと考えています。メインはこちらでつくるにしても、街の中にはスタッフよりもある意味達者な人がいると思うのですよね。食材を無駄にしないで使い切る方法を知っていたり、手際がよかったり。そういう人が積極的に参加してくれるようであれば、いずれは併設のキッチンで自由に調理してもらいたいと思っています。週替わりなどで担当を決めてもいいし、子どもたち

が来て一緒に料理をつくるのもいいですね。従業員の子どもも学校の帰りに立ち寄り、家族も来たりしてワイワイやる、今日、手伝ってくれた人は食事代はいりませんよというのでもいい。と、こんなふうに構想をお話しているだけで、楽しくて元気になってきます。

時田 地域の人が楽しい食事をするために集まって、それぞれに自分の役割をみつけて動く。ごく自然に時間と空間を共有する。そんな場を想像します。お話を伺っていると、とてもおらかな運営ですが、何かルールは考えていますか？

草山 ばらばらに来て勝手に食べるのではなく、「いただきます」で一緒に食べは

じめることはルールにしたいと思っています。面倒かもしれませんが、ただ美味しいからというのではなく、そうやって一緒に食べるのがいいという人集まっています。

時田 「いただきます」のシーンが思い浮かびますね。子どもからお年寄りまで一緒に同じテーブルで食事ができるのは幸せなことだと思います。

草山 100年生きられる幸せな時代になってきたわけですから、定年後が独りぼっちであるとか、年金だけで小さく暮らすしかない、なんていう話は寂しいじゃないですか。もつと人と人が関わり合って第二、第三の人生を謳歌する、そのために自分の時間を喜んで持ち出す、そんなキーマンが地域に現れてほしいと思います。そういう人たちが、箱根口ガレージに来て子ども達と一緒に遊んだり、必要なら説教したり、積極的に関わってくれたらいいなと思っています。

時田 家族だけでないいろいろな世代の人が一緒にテーブルを囲んで、食事したり対話したりしながら人と人がつながる機会をつくられたのですね。本当に素晴らしいことです。そのような場をつくらうと思われたきっかけはどんなことだった

たのですか？

草山 実は、原体験があるんです。東日本大震災で、気仙沼の知り合いが被災したため月1回程度手伝いに通ったときの話です。震災当日、気仙沼のある神社の社務所が避難所になり120人程の人が真つ暗な中で夜を過ごしました。その避難所では被災した人たちを地域の人たちが助け合い励まし合いながら応援していたのですが、そこへ僕らのような外からのボランティアも加わり、夜8時を過ぎるとみんなが集う人の輪ができていきました。避難所にい

た最後の一人の行き先が決まった10月末まで毎日ここへ通いつめていたのは、ご自身は被災していない戦中戦後世代の自治会長のおじいさんでした。彼は学生ボランティアを見かけると、どこから来た、泊まっていくか、とよく声をかけていました。そんな人たちの姿を見ていて、ああ、こういう人たちが多いところがよい街になっていくのだな、と強く印象に残ったんです。箱根口ガレージも、夜に集まる人の輪ができて、いつかそのつながりが街中に伸びていけばいいなと。

時田 場がもっている力つてそんなふうに広がっていくのかもしれないですね。大きな計画の最初の一步をととても自然に、楽しく踏み出されているように感じます。私は、福祉とは特定の誰かのためのものではなく、すべての人たちが幸せであること、即ちWell Beingを目指すものでありたいと思うのです。街全体が福祉の実践の場になっていく社会を目指したい。ただ、今はまだそうなっていないので、そこを具現化していくのが私たちの仕事だと思っています。箱根口ガレージの、「人々が自らの手でつくっていく居

場所」という視点は、まさに私たちが目指している「地域共生社会」を実現する視点と同じです。直接的な福祉の現場ではないところから発想され、人々が集い安心できる場が街中に現れると知ったとき、正直なところ、「やられたな！」と思っただんですよ(笑)。

草山 尊徳翁の話の中に、湯船の湯を漕ぐ話があります。手で自分のほうへかき寄せた湯は、いったん自分のほうへ来ても向こうへ流れていき、向こうに押した湯も、自分のほうへ帰ってきます。ですからまずは譲ること、「譲つて損なく、奪つて益なし」と言うのです。

この教えを自分だけが実践し、自分の家族だけに引き継いでも意味がありません。大切なのは、地域ぐるみで譲り合い助け合う心を育てて、次の世代に引き継いでいくこと。

この場所での試みが、そのための小さな橋渡しになればいいなと思っています。



時田佳代子（ときた・かよこ）

神奈川県小田原市生まれ。地元小田原でイタリアンレストランの開業・経営を経て、平成14年、社会福祉法人小田原福祉会に入職。平成30年より社会福祉法人小田原福祉会理事長。誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりに従事する。認知症ケア事業協同組合理事長、全国地域包括ケアシステム連絡会理事。

草山明久（くさやま・あきひさ）

昭和43年生まれ。報徳二宮神社の社家に生まれ平成6年より奉職、20年より宮司。江戸時代末期に600に及ぶ農村や諸藩の財政再建を成し遂げた御祭神二宮尊徳翁の報徳思想と仕法を現代の地域振興に生かす活動を推進。小田原柑橘倶楽部発起人。



2021年11月、地域食堂の試験運用が実施された。老若男女がテーブルを囲み、食後は「お片付けさん」と「お子守りさん」（子どもの見守り）の分業で和やかに片付けを行なった。

BOOK & MOVIE



『奇跡の人 The Miracle Worker』

日本版ヘレン・ケラー物語。私宅監置(座敷牢)、ジェンダー問題、障がい者差別、家父長制などなど、本家にはない要素も盛り込みながら、「安」と「れん」の成長を綴っていく。そこに+aとしての「キワ」の登場。これは公共の場では読んではいけないやつです。醜態を晒す羽目になります。「人の可能性を信じる」というのは簡単だが「信じ続ける」のは並大抵のことではない。伴走型支援の神髄がここに 있습니다。

著者:原田マハ 出版社:双葉社 刊行日:2018年



『潜水服は蝶の夢を見る』

デイとショートステイの管理者を兼務していて、多忙な毎日を過ごしていた頃に出会った作品。主人公が脳梗塞を患い、閉じ込め症候群となり、左目しか動かせない状態で綴った自伝小説の映画化。深刻な状態ながらも、ときにユーモラスな展開もある。映像も美しい。自身の鬱屈した気持ちを解してくれた作品です。

監督:ジュリアン・シュナーベル 制作国:フランス 製作:2007年

推薦者・文:神矢 孝之(理事・事務局長、主任介護支援専門員・介護福祉士)

趣味:読書、美術・映画鑑賞

好きなもの:海老、蕎麦、米焼酎、代わり映えない日常、新刊の紙の匂い、切れ味鋭い言説

苦手なもの:スピーチ、推しの強いもの、振りかざされる正義、勝手に入れられたお茶

潤生園の台所

(松風焼き)



簡単おせうです。子どもから高齢の方まで、同じものが食べられる硬さです。

とても美味しいので、ぜひお正月だけではなく日常的に作ってください。



尾上千鶴

みんなの家南足柄特養の栄養ケアとれんげの里の厨房で毎日楽しく働いています。人生の半分以上を潤生園で過ごしています。趣味は、食べ歩き、体重維持に苦戦する毎日です。

【材料】4人分量

鶏ももひき肉 60g

玉ねぎ 25g

塩 0.2g

サラダ油 1.1g

炒りごま 0.5g

◎調味料

みそ 4.4g

パン粉 4.9g

牛乳 5.0g

卵 3.3g

砂糖 1.5g

しょうゆ 0.8g

みりん 2.2g

- 1 熱したフライパンにみじん切りにした玉ねぎと塩を加えてサラダ油でしんなりするまで炒めて冷ましておく。
- 2 調味料のみそは、牛乳でよく溶かしてから、調味料と合わせておく。
- 3 ひき肉は、何も加えないうちによく捏ねて肉の粘りを出す。
- 4 3のひき肉に1の玉ねぎと調味料をすべて加えて良くなじむように混ぜる。
- 5 鉄板にひき肉を好みの形に成形し、表面にけしの実や炒りごまを振り、200℃のオーブンで10～15分焼く。
- 6 好みの形に切り分けて盛り付ける。

編集後記

今号の表紙では、取材時に「みんなの家たじま」を優しく彩っていた、色とりどりの手作り紙飾りを取り上げました。「安心」を支える数限りない営みを、新しい年もお伝えしてまいります。次号もどうぞお楽しみに。

潤生園ニュースレター「うるる」vol.4

発行日 令和3年12月

デザイン TAICHI ABE DESIGN INC.

撮影 橋本貴雄・牛山恵子(P.7)

イラスト 落合恵

編集 牛山恵子(合同会社スタジオパンダ)

大谷薫子(モクシュラ)

執筆 牛山恵子(合同会社スタジオパンダ)

酒井直子

発行者 社会福祉法人

小田原福祉会 うるる編集部

神奈川県小田原市穴部377

<https://junseien.jp>